

平成14年2月(2002年)No. 434

新年会(兼・総会)に 新記録の30名が出席

今年の新年会は例年同様、法善寺横の「さと」で1月20日の夜、総会を兼ねて催しましたが、何と30名の出席を得て大盛会でした。合原会長の議事進行で平成13年度活動報告、会計報告、会計監査報告、例会最多出席者、最多出品賞等の表彰に引き続き、新世話役も含めた役割分担、平成14年度の活動方針など、順調に進行し、満場一致で承認の拍手で無事総会を終了し、新年会に入りました。前年度の例会皆出席者は9名を数えたのは特筆すべきことで、10回以上出席者と10本以上の作品出品者には漏れなく記念のDVテープが贈呈されました。新年会では、例会にはほとんど欠席の方も、この新年会だけは出席したいとの方も何人か居られて久方ぶりの再会で盃を酌み交わす光景も見られました。

丹波篠山ビデオコンテストに有村氏が入賞

このほど行われた第13回丹波篠山ビデオ大賞コンテストに、有村世話役が「心に残る原風景」を出品され、見事入賞されました。おめでとうございます。この作品は11月例会で上映されたもので、ネパールの農村を描いた秀作です。

鳥取から「ふるさと」をテーマの作品募集

第17回国民文化祭、とっとり2002「ふるさと映像祭」ビデオ作品の募集が来ています。腕だめしに応募されたい方は、応募用紙と要項がありますので会長宛ご連絡ください。6月28日〆切です。

2月例会と作品研究会のお知らせ

2月例会は23日(第4土曜日)18時より、阿倍野市民学習センターで開催します。なお、作品研究会は13時30分より行いますので、こちらもどうぞよろしく。未完成作品も歓迎です。まとめ方について助言が欲しい方など是非作品を持参下さい。お待ちしております。

1月の例会レポート

寒い1月例会でしたが、25名の出席者があり会場は冷房が欲しい位の暖かさで盛会でした。今月の司会は関さん、書記：安居さん、デッキ係は河合さんと増池さん、受付兼照明係は奥さんと渡辺さんの各担当で会を進行しました。

■出席者：今井、江村、江藤、岡本、河合、奥、合原、片山、関、華岡、那須、藤原、森、前田、松本、増池、進藤、森下、森口、中尾、宮崎、渡辺、吉岡、安居夫妻の25氏。

■上映作品

(今月の短評は安居利次世話役です。)

1) 廃線跡を行く 増池 茂さん 8分45秒

旧山陰線の廃線跡は絶好のハイキングコース(持ち主のJRは事故が起こった時の責任上歩いてほしくないとか)です。正確なショットで溪谷美を撮り廃線跡の枕木やあちこちに残った標識も情緒たっぷりにお撮りになっています。本当に増池さんのカットは美しいです。トンネルのカットも幻想的でした。ですからちょっとカットの並べ方を変えて、汽笛や鉄橋を渡る音、川の水の音、など加えることで、SL全盛時代のノスタルジックなすばらしい映像詩が生まれるように思えます。何しろカットがすばらしいのですから……

2) 赤い季節 関 剛さん 5分40秒

作者はこの作品を前衛的だといわれます。新しい表現手段を用いた実験的映像、まさにそうなんです。OVC作品(見ておられない方も多いと思いますがOVCの関さんの撮影会作品)に比べて実験的映像は格段に洗練されました。しかし歌詞がインポーズ、観ているほうは混乱しました。混乱もまた前衛となれば話は別ですが…それは別にして赤と黒だけの映像、見ている私達には新鮮でした。あの『合唱』の時と違ってPCを使えば私達も盗む事が出来ます。前衛は賛否両論あります。しかしアバンギャルトの時代から心象派とともに私達

アマチュア-の心情のどこかに撮ってみたい欲望はあるのです。うまく表現出来るかどうかは別の話ですが…。

3) 消防出初式 安居 良枝さん 6分

ATCで行われた出初め式。隣にいた世話焼きおじさんの会話がモロにはいります。それを逆手にとっておじさんの指導のナレを全面に出し面白くまとめています。途中でうるさくなって逃げ出します。全編おじさんで通せば、もっとよかったです…、終に近くおじさんを無視していたのに自分のカメラがおじさんの言いなりに動いていたことに気づきショックをうけたとか。別の切り口から捕らえた出初式。編集段階での発想。それゆえに材料不足はどうしようもありません。面白い会話を全部録音するために通信販売で小型のデジタルレコーダーを申し込みました。

4) えべっさん 安居 利次さん 6分25秒

今年の10日戎の賑わいを宵えびすに撮ってきました。1脚だけを下げていったのは正解でした。しかし手持ちで重いカメラを1脚につけて人ごみで固定したショットを撮るのは難しいです。俯瞰的なカットはワイドにしても動きます。それを何とかごまかそうとしてPCでスローにしたら今度は人の動きが不自然になります。やはりしっかり撮ることが肝腎だと思いました。福娘のアップがまだまだ小さいと司会から指摘があり、もっと近づいてドアップを撮る習慣をつけるべきと反省しています。

5) 嵐山もみじ祭 吉岡 貞夫さん 8分50秒

OVCの撮影会作品、当日はまれに見る晴天、その日限りのもみじ祭りの情景を作品の中に織り込むことが条件でした。嵐山付近のスケッチを巻頭にもみじ祭りの神事から詳細に撮っておられます。特に圧巻は島原大夫のお手前と道中でした。ものすごい人の中を三脚をすえてしっかりとしたアングル。露払いのかむろが真正面からくるカットは、はっとします。道中の俯瞰はあとで聞くとやはり石垣の上に乗って撮りになったとか、後半のカットは撮影の苦勞

がにじみ出ていました。渡月橋あたりだけでこの作品をまとめるのは大変なことです。そうゆう点でもカットの時間配分は成功していました。あえて注文をつければ7分までのコンパクト作品にされるともっと引き締まるのではないのでしょうか。

6) 信濃錦秋 (Version 01)

河合 源七郎さん 5分35秒

信州のもみじに、こだわりをもたれた作者の錦秋描写です。アランフェス狂騒曲にのせたカットつなぎはうっとりとしてしまいます。NHKの名曲アルバムを見(聞く)ているようで、頭の中が空っぽになってしまい思考が停止してしまいました。それで司会のロングに似たようなカットを2, 3整理したほうがよいという言葉にもう一度見直してみました。このカットかなと思いましたがあまりよくわかりませんでした。最後の富士山の遠景はぼーっと観ていてもいいカットだなとはわかりましたが…。それにしてもアランフェスのこの曲はいいですね。タイトルの後ろの Version01 は2年前にもつくったのでこれは 2001 年版だという意味だそうです。信州のもみじに対するこだわりがここにも現れています。因みに関西に比べて黄が多いそうです。

7) 秋彩の室生路を行く

森口 吉正さん 7分47秒

朝霧が立ち込める山間の川面、かやぶき屋根から染み出るようにたちのぼる蒸気、都会では絶対に見られない神秘的ともいえる冒頭のシーンには目をみはりました。聞けば5時前に車で大阪を出発7時頃に室生にお着きになったとの事。このシーンに大変な苦勞が隠されていたのですね。すばらしいカットです。一作年にこられた時あの五重の塔の修復が完成して和尚さんが白木に筆を振るっておられそのカットと今回のカットをうまくつながれていました。あえて言えば今回は、はじめの幽玄カットの続きですから、大勢の人と室生寺の解説ぬきのバージョンでいかれたらまた新たな森口調の開拓につながるのではないのでしょうか。勿論今回は従来の森口調の最高ランクに値する作品であることはいままでのことです。

8) マッターホルンと周辺の間々

那須 典彦さん 6分

冒頭、登山電車の車内の人と窓の外の間々の交互の描写は、これから先の内容を彷彿とさせるつかみにはもってこいのすばらしいショットの連続でした。しかし本番になっても同じパターン、つまりマッターホルンの山々と登山者の顔が交互に出てくるシーンが続きます。司会が言われる荒っぽい編集はそのことでしょうか。荒っぽいといえばスネガのカフェテラスの遠景があまり時間を空けず2回でてきました。正確には同じカットではないのですが画角が少し違うだけではミスカットと思われてしまいます。ベテランの那須さんがお撮りになるカットはものすごくきれいですので編集にアナログ時代のカットつなぎを再現していただければ…と後輩からの希望です。

9) 素描「花と彫刻展」

新藤 信男さん 4分51秒

タイトルの素描論議が起りましたが、新藤さんはデッサンと言う意味ではなく自分なりの「花と彫刻展」と言う意味で、お使いになっているようです。冒頭の蛙のカットを筆頭に子犬が後足で土を掻いているカット、OLが泣きながら携帯をかけているカット、次に彫刻の耳だけの、どアップ。座っている彫刻のお尻のアップなど司会が言われる珍しいカットを拾っておられます。これらに関連付けて並べると面白い作品になります。難しいことですが…音楽は司会の言われるように少し注意すればPCですから簡単によくなります。素質がおりのようなのでこれからの作品が楽しみです。

10) 晩秋の牛滝山

江村 一郎さん 4分40秒

タイトルに続いて30秒にわたって滝のシーンが続きます。江村流と身構えてみるとちょっと苦にならなくてむしろいいじゃないと思ったのですが、喫茶店で作者の江村さんが「僕も長い思ったんやけどきられへんやろ」「途中でOLかけてちじめたら」「あーそうか」ここが江村さんのいいところ、素直に聞かれますが、しかし意外と縮めんほうが、いいときが多いんです。

このところが江村さんの感性なんでしょう。終の木漏れ日のいいカットも35秒続きます。しかし長いカットの中をじっと観ていますとチャンと変化がありそれを計算に入れたロングカットだと思います。山の秋をしみじみ感じさせる秀作なんです。長い付き合いの前田さんによればSLを追いかけていたフィルム時代にその源流はあるそうで、その手法は変わっていないそうです。OMCの無形文化財というところでしょうか。

11) 0089宇宙の旅「希望の星を目指し
て」 江藤 洋司さん 11分45秒

教会の布教劇を頼まれてお撮りになった記録のようです。出演者も観客も身内。身内劇特有の雰囲気はやはり身内以外は共感を得ることは難しいですね。どっと笑う歓声も画面からの共感がないと逆に第三者の眼と心を逆なでしてしまいます。笑いのもとが劇の構成にあるのではなく身内が出ているという単純さにあるのですから。あえて作品にするには作者(江藤さん)自身が身内とわれわれ第三者の中を取り持つ努力が必要です。このことは私達がビデオ作品を作るときにも大切な要素になると思います。見る人に解ったと思ってもらうためにも。一人よがりにならないためにも。

12) 梅田かいわい(テレシネS53年)
合原 一夫さん 15分40秒

24年前の梅田かいわい、見る人にとってそれぞれの思いが脳裏を掠めたことでしょう。田を埋めたから、うめた(埋田)少しかっこよく梅田、通称では短く北、大阪の北の玄関口も24年前はああったんだ。自分とのつながりを思いながら映像をみました。フィルム時代にこれだけの大作を作るためにはどれだけの費用がいったか、大阪出身でない作者がよく丹念に歩かれています。再開発前のスラム街の路地裏まで写されているのを見て最近の作品の土台もすでにこの頃もう芽生えていたんだと感じました。フィルムをDVに起こすのも大変だったでしょうが、貴重な作品を見せていただいて自分の歩んできた人生を見つめ直すチャンスをももらったような気がしました。

以上で例会を終了し、喫茶組と一杯組に別れて二次会へと向かいました。

■今月のインターネット作品

「嵐山もみじ祭」 吉岡貞夫

■インターネット情報

このコーナーでは、新聞記事(主に日経新聞)やネット関係雑誌に載っていた情報を、コメントを加えて紹介しているが、日本のブロードバンド普及も非常に弾みがついてきている。現在280万所帯→2002年末900万所帯と3倍強の増加が見込まれる観測がある。IT不況と云われるようになって、まだ1年に満たないが、PC等ハードに出費するよりネット接続環境に投資するという考えが行き渡ってきたというべきであろうか。ブロードバンドの効用ということになると、マスコミでは第1に映像の充実を掲げるが、私たちが行っている趣味のビデオ制作もまさしく映像であることから、アマチュア映像のネットへの進出はもっと関心を持たれてしかるべきと考え、私は3年前から提唱してきた。その方策として、「SL讃歌」や「ビデオスケッチ」等の動画配信ウェブサイトの開設をしたが、どうやらその機運も賛同されることとなり、「ビデオサロン」誌に4月号から”How to upload Homepage”、”インターネットシッターを開設しよう”というタイトルで動画配信の連載記事を掲載することになった。これが契機になって日本各地のアマチュア映像作家が、それぞれ自分の映像ウェブサイトを開設するようになったら、私たちは手軽にPCの中で作品観賞が出来るようになり、アマチュア映像界の交流と発展がなされるのではなかろうかと思っています。都市近郊ではあるが多くの人がADSLを導入できるようになったし、数年後にはFTTHが普及すると期待されている。FTTHの時代になるとビデオ再生と変わらない映像がインターネットで見られるという素晴らしい時代になります。これが数年後には現実になりつつあるのです。

(以下はネット版をご覧ください。)